

第4回インターナショナルデイ

外国人を含めた市民の 地域ネットワークづくりが目的

第4回目となったインターナショナルデイ。このイベントは、八千代市国際交流協会の内なる国際交流として広く市民にPRし、外国人を含めた市民の地域ネットワークづくりを目的としており、今年度は、市内に在住する外国人の母国の紹介や、音楽、ダンス、食べ物など多文化に触れる機会をつくる企画となっています。

今回のイベントでは、ハワイアンは昨年も参加しているモアニ・ウィンズの演奏。踊りは橋純奈ハワイア

ン&タヒチアンダンスクラブで行われたほか、アンサンプル・モアのアコーディオン演奏、そしてエストラニョ・サンバチームの踊りと演奏、特にサンバにおいては、ボーカルのシキーニョさんが加わり、20分ほどのソロ演奏で観客を魅了していました。

また、今年も展示ブースは、国際姉妹都市部会、語学ボランティア部会、日本語指導ボランティア部会の3団体が発表しました。

国際姉妹都市部会では「国際姉妹都市タイラー市」との交流等の紹介として、一昨年訪問したタイラー市での貴重な写真も飾られていました。

語学ボランティア部会では、英語、韓国語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ポーランド語が堪能な人がおり、タイラー市との姉妹都市交流や防災・検診などへの翻訳・通訳の協力を行っているほか、部会内の親睦を図るため語学研修会などを定期的に行っていることが紹介されました。

日本語指導ボランティア部会では、村上公民館、八千代台東南公民館、阿蘇公民館で行われる7教室で外国人の皆さんの日本語学習のお手伝いをしていることが紹介されたほか、今回は展示として八千代市内に住



▲エキサイティングサンバの主役は子供たち
▼見事なタヒチアンダンスにお客さんもうっとり



▲(ビンゴゲーム)景品のブラジルのお菓子などにお客さんも満足

む外国人の数(2009年5月末現在)を1位から順に書き出し、最後の57位まで4,290人を書き出しました。

ここには、地図、国旗、独立年月日、国連加入、在日公館、人口、平均寿命などが書かれており、目を通す人が多かったようです。ちなみに1位はブラジルで1,279名(県内で1位)、2位は中国で735名、3位はフィリピンで563名、4位はペルーで493名(県内で1位)、5位は韓国で391名、6位はベトナムで240名(県内で2位)、以下タイ85人、米国50人、インドネシア43人、バングラデシュ41人、その他370人となっています。また、県内の外国人居住者では、千葉市、市川市、松戸市、船橋市、柏市、市原市に続いて八千代市は約4,300名で7位となっています。

なお、今回初めての試みとして、ビンゴゲームをやるなど少しでも外国から来た方が参加できるようにしました。また、昨年と同じように「モンテ・ヤマザキ」さんにも出店していただき、好評を博しました。

(三橋伸一郎)



▲各国の名曲をアコーディオンで演奏したアンサンプル・モア

▼NHK教育テレビでおなじみのシキーニョさんの歌と演奏



▲フラダンスの練習をする子供たち ♪月の夜は～浜に出て♪

▼マイクを片手にステップ指導するサンバチームの代表者



●イベントを終えて

八千代市国際交流協会
会長 周郷紀男



このイベントは、八千代市発「世界市民」を目指して、私どもの国際交流協会が更に成長していこうと行われたものです。今回のように多くの市民の皆さんが参加されるということは、非常にありがたく、感謝申し上げます。

この国際交流協会も出来てまだ5年目。外国人の方々に日本語を教えるということは大変なことだと思います。外国人の方が日本語を学ぶということは、日本の文化を学ぶ上でとても大切なことであると思っております。国際交流は「郷に入らば、郷に従え」が原則で、外国人が持つ風俗習慣や価値体系などの多様性をそのまま認めながら、お互いの存在を尊重し、理解を深めていくことが大切であると思っています。

「AMIGO」こども日本語教室

平成20年4月から始められたこの教室は2年目を迎え、生徒は中学生が中心となりました。毎週水曜日午後2時から午後4時まで村上公民館で行われるこの教室について、振り返ってみたいと思います。

村上東中の日本語指導授業を「AMIGO」のボランティアが支援

この教室は、村上中学校の生徒と卒業したが進学あるいは就労できないままの児童が4名～5名来る状態で運営しており、生徒の出席は毎回安定せず、ボランティアが遊んでしまうときもあります。それでも、学校が市教研で早く終わったからと、昨年来ていた生徒が訪ねてきて元気な様子を見せてくれることもあり、ボランティアにとっては嬉しい盛況となることもあります。

一方、村上東中学校の生徒を対象とした「AMIGO」教室を、毎週水曜日3・4時限目（10時から12時半まで）に中学校の教室を使用して平成21年4月から始めました。村上地区の小・中学校5校を対象に、それまで1名であった日本語担当の加配教員が4月から3名に増員されています。村上東中学校には1名が常駐しているほか、市教育委員会の派遣による母語及び日本語による相談・指導等に当たる教育相談員や民生委員児童委員の支援者が常駐しています。

当初11名を対象に始まった村上東中学校の教室も夏休み後には転校や帰国によって減少し、更には1年半に及ぶ教室活動の成果も出ています。今後はできるだけ多くの時間をクラスで学習するようにして、クラスの生徒たちと友だち関係を築くように動機づけること

が大切であるとの学校側の意向もあり、「村上東中学校の水曜日教室」は平成21年10月に終了しました。

替わりに村上東中学校の日本語指導担任が行う月曜と木曜の日本語指導授業を「AMIGO」のボランティアが支援しています。また授業の一部としての「AMIGO」水曜日教室は、いつまでも母語に多く頼ったままの生活を容認する一因にもなっています。中学校を卒業した後の生活設計については、安易な気持ちや学校生活で得るものが小さいまま終わるのではと危惧され、学校ではクラスで学ぶ時間を多くすることが良いとの方針で、村上東中学校での日本語学習を必要とする生徒は減りました。このように、水曜日に運営してきた学校の日本語指導授業を補完する形でのボランティア教室の役割は、各学校での日本語指導体制も変化してきたことから、平成22年3月をもって終了いたします。

児童のため 教室継続を再認識

しかし、「AMIGO」こども日本語教室設立時から外国籍児童の憩いの場にすることが主目的の一つであること、昨年来て「AMIGO」の教室を卒業したと思っていた児童が時間を見つけて訪ねてくることなどから、児童のための教室を継続する必要があると再認識しています。

また、村上土曜教室に「AMIGO」の生徒のほかに米本団地からの児童も多くきており、社会人を対象とした活動が困難になっておりました。このため毎週土曜日午前中に「AMIGO」こども日本語教室を立ち上げることにし、社会福祉協議会のご好意を得て村上団地内の村上福祉センターを賃借して平成21年11月から始めました。

ボランティア5名で対応している土曜教室には、高校進学準備中や中卒で不就労の児童、更には来日直後の児童など、日本語習熟レベルの違う13名前後の児童・生徒が毎週来ております。このため、ボランティアの増員と運営システムの構築が必要とされ、大学等との連携による支援の可能性などを検討しています。

ボランティアの献身的な活動 期待以上の成果に

「AMIGO」こども日本語教室の開設に伴い、3回目を迎えた「サバイバル日本語講座 in 八千代」（8月下旬開催）の参加者も八千代市から児童・生徒27名



▲この日参加した神田外国語大学多文化共生研究会及び学生通訳ボランティアも含め記念撮影

となり大幅に増加しました。今年の「サバイバル日本語講座」には各学校の積極的な支援も得られました。また、平成20年から始められた在校外国籍児童約14名に対する日本語学習講座「村上北小学校・わくわくクラス」では、教頭先生の支援者としてボランティア8名前後が児童の成長を楽しみながら活動しています。

今後も、村上地区の小・中学校5校で構成される「村上地区外国人児童生徒受入整備連絡会」の活動にも積極的な支援を行っていききたいと思います。「AMIGO」こども日本語教室は、開設前からの多くのボランティアによる献身的な活動を得て、期待以上の成果を上げていると感じており、今後も八千代市国際交流協会をはじめとした関係者の皆さんの変わらぬご理解とご支援ご協力をお願いいたします。（鈴木正俊）



▲村上福祉センターで熱心に指導を受ける生徒たち



理事の美川克子さん 平成21年度篤行者表彰される

平成21年度の八千代市篤行者表彰で、八千代市国際交流協会的美川克子さんが教育・文化功勞を受賞しました。美川さんは現在、国際交流協会の理事を務めておられますが、平成3年4月には、八千代市在住通訳団会員（現語学ボランティアの会会員）として、外国人と八千代市民をつなぐ懸け橋として活躍し、この活動を通して在住外国人に対して生活に必要な日本語を教授する必要性を痛感し、平成4年9月に市内で初の大人向け日本語教室村上月曜会を設立しました。平成

18年1月に設立された八千代市国際交流協会では、2年に渡る準備委員会に参加し、尽力しました。

また、平成15年より在住外国人の子ども向けに日本語教室の設立に情熱を注ぎ、平成19年8月、日本語を母語としない子どもたちの夏季集中日本語講座である「サバイバル日本語教室'07 in 八千代」を八千代市、千葉県国際交流センターとの共催で開催しました。平成20年4月、AMIGOこども日本語教室開設に携わり、現在に至っております。

第3回日本語スピーチコンテスト レベルの高い大会に

平成22年1月30日（土）午前10時から八千代市八千代台東南公共センターで、ボランティアによる日本語教室主催の第3回日本語スピーチコンテストが開催されました。市内7教室で学ぶ9か国13人の外国人の方が参加し、日ごろの勉強の成果を披露しました。

コンテストも今年で3回目を迎え、家族や講師の先生を含めると60余名となり、スピーチが始まると会場は熱っぽい雰囲気になりました。スピーチの内容もバラエティに富み、日本での様々な異文化体験を感じるまま、素直に語るスピーチが多く、大変レベルの高

い大会となりました。

地域における日本語指導ボランティア活動の重要性は、ますます高まってきており、今後ともお役にたちたいと思っております。（広野修三）



▶参加した皆さん

語学ボランティア部会 語学研修で紅葉の箱根路へ

毎年恒例で8回目になる語学ボランティア部会の語学研修旅行が、晩秋の去る平成21年11月14日から15日までの両日、1泊2日の日程で行われました。行き先は紅葉真っ盛りの箱根。参加者は八千代市の学校英語教育に活躍中のALT(外国語指導助手)のジェニー・ボンフォードさん(カナダ)、ジリアン・ライトフッドさん(米国タイラー市)、ジェミー・ビッチェンハウファーさん(米国タイラー市)、ダニー・グオさん(カナダ・トロント市)の方々や、日本滞在歴の長いアメリカ人英語教師レイ・フリコさんと、語学ボランティア部会員12名の合計17名でした。

出発の14日早朝は、今にも振り出しそうな悪天気で非常な肌寒さ。「この様子では箱根はきっと冷雨に違いない」と大いに心配しながら一同小田急の特急で箱根湯元へ。ここで乗り換えて満員の箱根登山鉄道で強羅に向かいました。強羅の蕎麦屋で昼食。午後はケーブルカーとロープウェイで大涌谷を目指しました。参加者は日ごろの精進のお陰か、このころから天気は急速に回復し、晩秋の陽光のもと、周囲の山々は彩りを増してきました。大涌谷の頂上に近づくにつれて、豁然として眼下にパノラミックな絶景が広がり、一同思わず息のみました。筆者にも胸中一片の詩情が浮かびました。

「秋深し満山紅差す箱根山」

大涌谷の山頂付近でしばしば散策をしながら周囲の景観を鑑賞。火口噴煙を背景に一同記念撮影した後に下山し、夕方近く宿泊先の「強羅ホテルパイプのけむり」に到着。部屋割り後、今回の旅行の主目的である語学研修を早速開始しました。まず、ALTメンバーが各自の得意テーマを中心にプレゼンテーションを行い、質疑応答などで活発に研修を進めました。夕食は

▼ホテルの前で記念撮影



バイキングスタイル。バラエティ豊富でなかなか美味でした。夕食後は温泉にゆっくり浸って心身をリフレッシュしました。その後一室に集まって「語学研修パート2」を行いました。ALT共々、一同グラスを片手に今度は日本側の自己紹介を兼ねて、和気あいあいの英語プレゼンテーション。アルコールを潤滑油に一同しり上がりに好調。いやはや賑やか。そこで戯れ句を一つ。

「呑むほどに英語のお口も滑らかに」

翌日15日は、朝から一点の雲なき秋晴れ。しかし、山頂付近は「天気晴朗なれども風強し」との気象予報で、ロープウェイの中止の懸念ありとのことでした。朝食、記念撮影の後、箱根ガラスの森美術館へ進路変更することになりました。水の都・中世ヴェネチアの絢爛たるガラス工芸品のコレクションの数々。紺碧の秋空のもと、一同楽しく鑑賞しました。併設のイタリアンレストランで売り物のカンツォーネを聞きながら昼食。午後記念撮影した後下山し、箱根湯元経由小田急特急で帰途に着きました。新宿で再会を約束し、解散。しばしの異文化経験も含め、大変有意義で楽しい研修旅行でした。(小川剛毅)



▲大涌谷の火口付近を背景に記念撮影



▲語学研修は質疑応答で活発なものに

サバイバル日本語講座で初の消防署見学

ひとたび災害が発生すると、外国人の方々は言葉の通じないことで弱災害者となりうる可能性が極めて高く、過去の「阪神淡路地震」においても、県内外国人約8万人の内、約2万人が「非日本語話者」と言われる方々でした。災害時においても「ことばの壁」は彼らに大きく拍車をかけているのです。加えて「制度の壁」「心の壁」が影響していることも見逃せません。外国人にとって「日常からあった壁が災害時には、より高くなる」ということです。「生活すること」に専念せざるを得ない彼らに対し、私たちは数少ない機会をとらえ、「安全」「安心」への手立てを差し伸べるべきだと思います。

今年度、日本語部会による「サバイバル日本語講座」の一環として、外国人児童・生徒への災害に関わる啓蒙の機会を持つことができました。マンガやイラスト入りの資料を通しての予備知識を学んだ後、消防署に向かい、AED、消火訓練、更には煙中訓練等の実技を児童・生徒の皆さんに肌で体験していただくことができました。彼らにとっては、初体験づくめの一日でした。彼らの今後の生活の中で、不幸にして災害に遭遇したとき、この日のことを思い出し、これらの経験を少しでも生かすことができればと思います。

最後に、八千代市には約4千人の外国人が在住しますが、私たちは今後も日本語指導の場及びイベントを通じて、外国人との共生につながる活動をしていきたいと思っています。(後藤國寿)



▲消防署の皆さんと記念撮影



▲実際に消火訓練に当たる子供たち

●21年度予算の概要は次のとおり

八千代市国際交流協会の平成21年度予算が平成21年4月19日に行われた総会で決まりました。その概要は次のとおりです。

■収入			単位:円
科 目		金 額	
1. 会費収入	1. 会費収入	674,000	
2. 補助金	1. 補助金	1,600,000	
3. 繰越金	1. 繰越金	74,710	
4. 雑収入	1. 雑収入	1,290	
合 計		2,350,000	

■支出					単位:円
科 目		金 額		摘 要	
1. 事業費 1,115,000	1. インターナショナルデー 350,000	1. 謝金	170,000	出演者・協力者謝金	
		2. 需要費	150,000	ポスター制作・事務用品など	
		3. 役務費	30,000	イベント告知など	
2. 広報事業費 220,000	1. 需要費	150,000	広報紙「cliP」印刷		
		2. 役務費	70,000	広報紙「cliP」郵送	
3. 部会事業費 545,000	1. 部会事業費	545,000	国際姉妹都市部会、日本語指導ボランティア部会、語学ボランティア部会、国際交流推進部会		
		2. 事務費	1,175,000	事務用品・会議用茶菓代	
2. 事務費 1,175,000	1. 事務費	1. 需要費	100,000	事務用品・会議用茶菓代	
		2. 委託料	50,000	ホームページ制作委託料	
		3. 役務費	200,000	会議通知・資料送付・電話代等	
		4. 備品購入費	0		
		5. 人件費	740,000	事務職員給与・労災	
		6. 研修費	45,000	研修参加費補助	
		7. 負担金	10,000	千葉県国際交流センター団体会費	
		8. 交際費	30,000		
3. 予備費 60,000	1. 予備費	60,000	60,000		
		1. 予備費	60,000		
合 計			2,350,000		

22年度受入実行委員会 エンジン全開で受入準備中

姉妹都市として交流し、ますます友情を深めているタイラー市の市民訪問団が八千代市を訪れます。期間は平成22年7月15日（木）から19日（祝）まで。期間中は交流を通して日本の文化に触れていただき、深い

友情を築いていただけるよう会員の皆様のご協力をお願いします。行事予定は次のとおり。▷地引網体験（九十九里浜）▷海ほたる見学▷東京成徳大で十二単衣と甲冑試着と交流▷「古久」で骨董品鑑賞・日本屋敷見学など



▲前回の受け入れ
ティーセレモニーの体験

会員を募集しています

八千代市国際交流協会では、次の4つの部会の会員を募集しています。

▷部会名／国際交流促進部会・語学ボランティア部会・国際姉妹都市部会・日本語指導ボランティア部会

●年会費…個人：2,000円 家族：3,000円 学生：1,000円 サークル：10,000円

●入会方法…①会費を持参して直接事務局で入会手続きをする ②氏名・住所・電話・ファックス・希望する部会を事務局に郵送し、口座に会費を振り込む（千葉銀行大和田支店〈035-3324645〉八千代市国際交流協会会長・周郷紀男〈スゴウミチオ〉）のいずれかをお願いします。

●詳しくは事務局（八千代市役所国際推進室内 047-752-0593）までお問い合わせください。

編集後記

国際交流協会の一大イベントである「八千代で世界と出会おう」も4回目を迎え、大盛況のうちに終わりました。観客の中にもたくさんの外国の方々があり、私たちボランティアも観客の方々や出演者の方々と一緒になって楽しませていただきました。このイベントがこれからも回を重ね、外国の人たちとの交流がより深まることを期待します。また、今年はタイラー市からの市民訪問団が7月に訪問予定です。英語の苦手な

●海外旅行のトラブル回避って？

今回から外務省領事サービスセンター（海外安全担当）で出している「海外旅行のトラブル回避マニュアル」をお届けしましょう。もう一度安全対策を考えてみてはいかがでしょうか。

「自分の身は自分で守る」ための心構え

(1) 危険な場所へは近づかない

「危険な場所」にはまず、内乱、クーデター、テロ事件などにより政情が不安定で渡航を控える必要がある、あるいは渡航に際し特別の注意が必要という意味があります。渡航先決定に際しては、こうした危険について十分慎重に検討することが必要です。また、そのような「危険な場所」ではなくても、狭い範囲で強盗などの凶悪犯罪が多発する場所もあります。こうした場所については、危険の性質や度合を十分調べて、不用意に近づかない、夜間の外出や一人歩きを避けるという用心が大切です。

(2) 多額の現金、貴重品は持ち歩かない

海外では、日本人は多額の現金や貴重品を持っているという先入観を持たれており、財産犯罪のターゲットにされているケースが多くあります。最近では外から分らないように袋に入れ、首からシャツの下に吊るしたり、上衣の内側のポケットに収納して持ち歩く場合でも、強引に奪い取られるケースも見られます。したがって、外出する際にはホテルのセーフティボックスに預ける、買物はトラベラーズチェックやクレジットカードを使うといった工夫で、現金や貴重品はできるだけ持ち歩かないようにする対策が必要です。

パスポートについては、コピーの携帯を認められている国もありますので、それらの国では、パスポートそのものは持ち歩かないようにすることも必要です。

あなたにも片言の単語とボディーランゲージで会話してみませんか？ 素敵な思い出ができるかも知れませんよ。また、八千代市は県内でも外国人が多く住んでいる市ということです。ボランティアで日本語を教えているメキシコから来た男子が、今年高校を受験するため一生懸命頑張っている姿がありました。ノートを見せてもらうと漢字がビッシリ。私など最近あまり字を書くことが少なくなり、すっかり忘れていた難しい漢字も中にはあり、感心させられました。難しい日本の経済情勢の中で頑張っている外国の方々の明日を願わずにはいられない気持ちです。（河合晴子）